

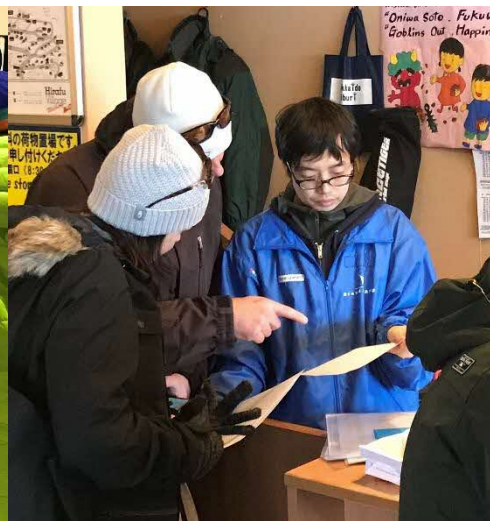
● LODGE MOIWA 834

(ホテルのレセプション)



● 東急リゾートサービス

(ウェルカムセンターでの接客)



● 杏ダイニング

(レストランでのホール、バーテンダー)



● ゴリラニセコ

(スーパーのレジ・品だし等)



● H T M

(マーケティング)



● Japan Powder Connection

(マーケティングリサーチ、ツアーガイド)



● キロロアソシエイツ

(アクティビティスタッフ)



● 利尻屋みのや

(販売・製造・商品開発)



参加者の声

●A.Tさん(法政大学2年・女性・キロロアソシエイツ勤務)

「人生経験が豊富な職場の先輩方と語り、自分の人生について深く考えた。こんな小さな田舎の村なのに、グローバルを感じ、視野が広がり、将来の選択肢が広がった。」

●K.Tさん(ワーホリ前30歳・奈良・男性・東急ウェルカムセンター勤務)

「ワーキングホリデーの準備として、お金も貯めながら、英語力も磨けるし、仲間もできるとても良い機会でした。」

●X.Lさん(札幌学院大学3年・女性・留学生・MnK勤務)

「国際的な職場で働かせてもらい、みんなベースとなる考え方や働くスタイルが全然違い、それによる誤解がたくさんあることがわかった。もっとお互いに積極的に理解し合うべきだと思った。」

●A.Tさん(関西外国語大学1年・女性・ビストロ・バーMusu勤務)

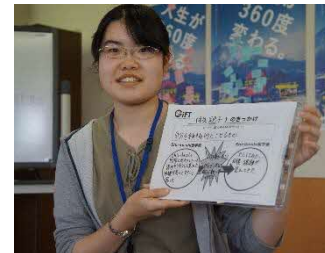
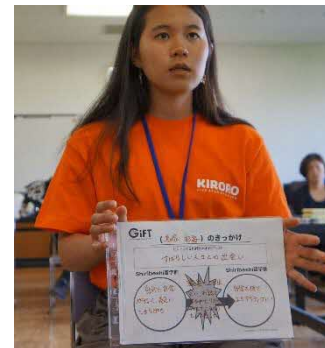
「日本でこんなに海外の人達と接する経験はここ以外ではない。日本にしながら他の国の習慣や文化などを肌で感じる事ができた。」

●N.Kさん(東京女子大学1年・女性・木ニセコ勤務)

「夏は外国人が少ないと聞いていたが、寮で外国人スタッフと交流できたのが良かった。」

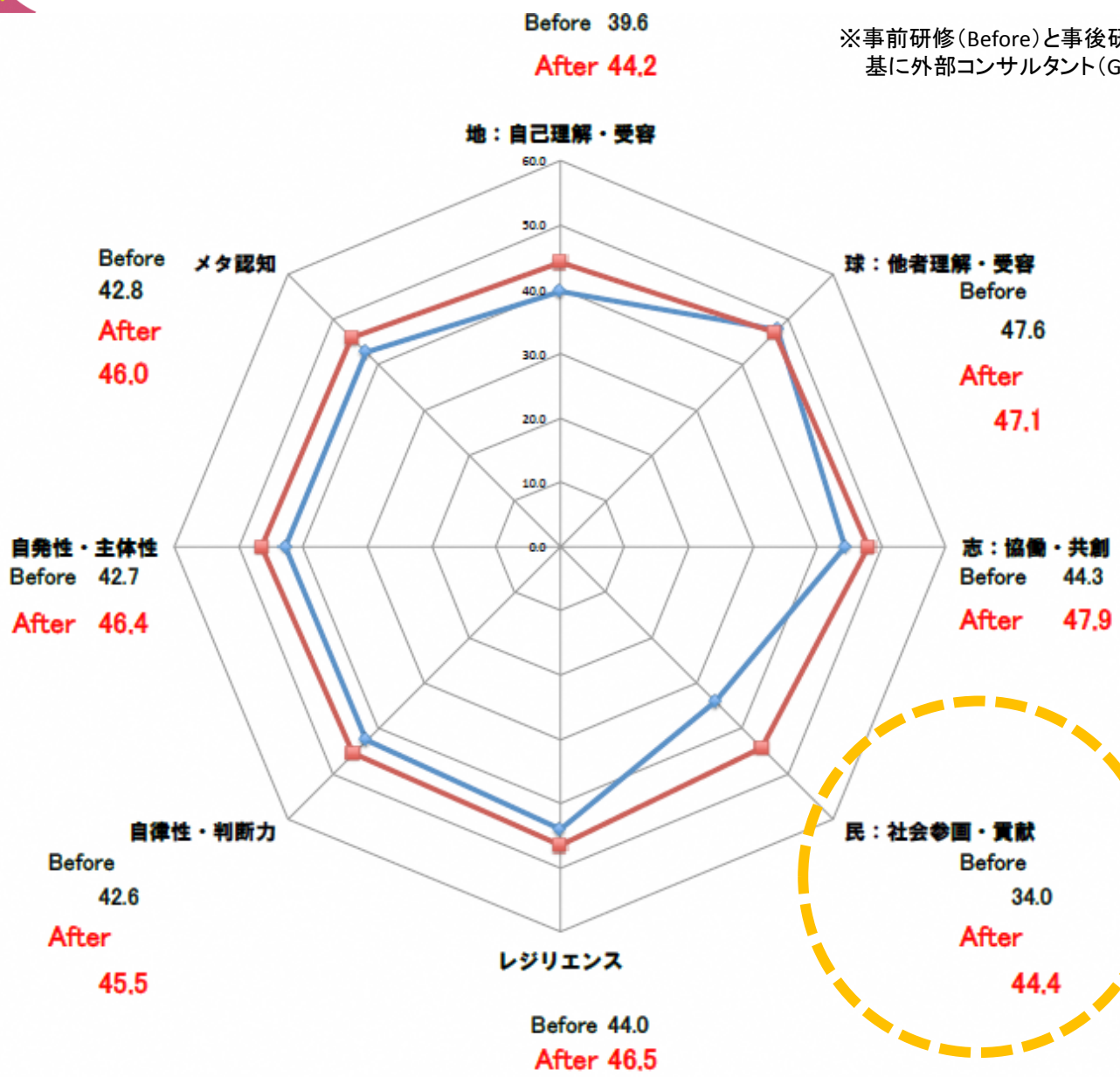
●K.Wさん(北海学園大学2年・男性・ゴリラニセコ勤務)

「自分の英語力の無さを痛感した。もっと頑張らなければいけないと強く実感した。」



参加者のアセスメントシート分析結果

※事前研修 (Before) と事後研修 (After) にて、参加者から取ったアセスメントシートを
基に外部コンサルタント (GiFT) が分析



**「社会に参画し、貢献する」
意識が特に向上**

	Before	After
自分がしていることと社会の関わりについて考えたことがある。	6.1	7.3
自分が社会に対してできることは何かを意識している。	6.0	7.5
自分が社会にどのように参画しているかについて認識している。	5.1	6.9
社会に対して自分なりの行動を起こし、発信することができる。	5.5	7.4
社会課題に対して日本人以外でチームを組んだり、海外でも活動することができる。	5.8	7.7
地球規模の課題を自分にひき付けて捉え、世界中どこであっても場所を選ばず活動することができる。	5.7	7.6
小計	34.0	44.4

●モイワリゾートオペレーション（宿泊業）



「非常に優秀で飲み込みも早く、仕事も正確だった。また
ムードメーカーとなって他のスタッフとも一緒に仕事をする事を楽しん
でくれたので、本当に良かった。」

●利尻屋みのや（小売業）



「自社の社員の教育の一環と思っている。人に何かを教えるという
ことは、自分がそのことをきちんと理解していなければいけない。」

●ザ・ニセコサプライカンパニー（飲食業）



「外国人スタッフが多い中、日本人を受け入れることは、接客の仕方
などにもいい影響がある。また、日本人と結婚して家庭を持つ
スタッフもいるので、地域に人材が残るきっかけにもなる。」

●MnK（不動産管理業）



「地域社会に貢献する企業でありたい。若い内にいろいろと経験をする
ことは、可能性を広げる。将来的に、この地域に帰ってきてく
れたり、就職に繋がったりしたら、ありがたい。」

●HTM（マーケティング関連業）



「語学能力を活かし、翻訳業務、通訳業務では、大きく
貢献してくれた。持ち前の明るさで、イベントの手伝いや取材で
の通訳も、うまくこなしていた。外国人スタッフとも問題なくコミュニケー
ションをとれていた。」

●地元経済人 「ShiriBeshi留学を応援する有志の会」



倶知安町内経済人有志により、会を結成(会長:ニセコ環境㈱古谷社長、協賛企業・個人計27団体)。上記写真は、事後研修終了後、有志の会主催の屋外BBQの様子。

●地元自治体 ニセコ町 片山町長



「若い人達にこの地域を知ってもらう、素晴らしい取組だと思う。ぜひ継続して実施してほしい。」

●事業パートナー マイス㈱ 取締役 丸谷グローバル企画室長

「後志留学に参加することで、なぜ語学を学ぶ必要があるのかを根本的に考える機会に直面する。国際的な習慣を経験することで、日本人であることを意識し、日本人として異文化間で生きることを柔軟に学び将来に繋げて欲しい。」



大学との連携

●札幌学院大学とグローバル人材育成に係る連携協定を締結（H30. 3. 23）



■連携協力事項

- (1) グローバルな視点に立った人的・知的資源の相互活用・交流連携
- (2) 地域活性化のための連携・協力
- (3) 地域課題解決に向けた政策の共同研究
- (4) 国際色豊かなまちづくりに必要な連携・協力

■振興局における連携メリット

- ①グローバル人材育成プランを推進する当局の施策に合致する
- ②協定締結により事業が広く認知され、他の大学等への広報・PRになる
- ③ShiriBeshi留学における安定的な参加者の供給が期待できる

【夏のプログラム】

- 夏のプログラムは、外国人観光客こそ少ないものの、外国人スタッフが多い受入企業など一定の条件を設けることで、夏でもプログラムの実施は可能。むしろ夏に来た方が、冬に比べると受入企業の余裕もあり、参加者にとってはケアしてもらいやすく良いのでは。また地域の魅力・コンテンツも、夏の方が多彩で「次は冬に来てみよう」、冬のプログラムに参加した人は「夏に来てみよう」とリピート訪問・参加してくれる可能性が高まり、良い。
- 規模も少なくとも(10人程度)でもプログラムとしては成立する。

【受入企業募集】

- △ インターン先の企業の雰囲気や仕事内容について、写真を提出してもらったり、具体的にイメージしやすいようにしてもらう。
- △ バイトではなくインターンシップであることを明確に線引きするためにも、一律受入の条件として対価は、無償にしてもいいのでは？(宿泊費及び最低限の食費の支給は除く)

【参加者募集】

- ワーホリ前後など、長期間で働ける人の参加があって良かった。彼らへのリーチを今後、より強化できれば！
- △ プログラムの中身が良く分からない。インターン先の企業や雰囲気がよく分からないという声が多い。ホームページ等に詳しく記載する必要がある。
- △ 早い者勝ちではなく、まとめて企業に渡した方が参加者も選ぶ方もよいのでは。そうするとマッチングの流れを作る必要が。第一希望がダメだった人は、次の回でなど、何段階が必要？
- △ PR用のチラシではプログラム内容のイメージが掴みづらい。
- 例えば、参加者の体験談がわかるペーパーを作る。もしくは、HPに体験談ページがあると良いのでは
- △ 参加可能期間の申込書への記載を必須に！事業を知ったきっかけなどの、簡易なアンケート付けても。
- △ 企業の状況もあるので難しいかもしれないが、ルスツ・キロロは特に、2名以上での受入をしてもらったほうが、励ましあえる仲間がいてよいと思った。
- △ ウェブサイトを明記して、本人にリサーチしてもらうのはどうか？会社側から依頼を受けて働き手を探すわけではないので、学生が自分でリサーチをして判断するスペースを設けるのも良いのでは？

【マッチング方法】

- △ 参加者と受入企業とのマッチングは、申込順(早い者勝ち)にするなら、とちんと明記すべき。
- △ 参加者と受入企業のマッチングに時間がかかり過ぎた。締切までにいくつかの段階を設け、それまでに来た申込者は一斉に企業に送る方が企業側にとっては選びやすいか。(やり方は要検討)
- △ 12月に入ると企業は忙しくなり、途端にレスポンスが遅くなった。できれば11月中にマッチングは済ませておきたい。
- △ 事務局からも、企業からも、申込者に連絡しても繋がらず、折り返しもなく、連絡が取れない状況が続いた。要項に「要折り返し」や「連絡が取れない場合は、優先順位が下がる」旨を明記するなど、申込者に責任を持たせる。

【事前研修】

- 事前研修の前に、数日間でもインターンを開始してもらうのはとても良かった。(今後は必須にすべき)事前研修時に自分の仕事のイメージを持って臨めるのと、そうでないのでは、研修の効果が全く違う。
- 事前研修を2日間に渡り、実施するのはとても効果的であった。
- 受入企業の社長レクチャーも非常に良かった。毎回、いろんな社長に来てもらったら面白いかもしれない。
- 事前研修で、横のつながりを作るファシリテーションは大事だと思った。後志に来る前に、非公開のFacebookグループを作って、やりとりできる場があってもよいのでは？LINEよりも、新しく入りやすい。
- △ 中間報告のように、間にもう一度参加者が集まる場があった方がよい？
- △ 役場訪問等、地域プログラムは期間の中盤頃に実施するのが良い。
- △ 英語研修は初めて実施したが、参加者の英語レベルによって評価が大きく分かれた。ある程度できる人にとっては、物足りなく感じた様子。実施するならレベル別にした方がよい。もしくは、任意参加にする。初心者向けのみにするなど。アンケートによると仕事で使えるようなフォーマルな表現、接客英語、日常会話などを勉強したいよう。任意参加で費用負担するとなった場合、学生が支出できるのは5-6千円程度か。

【参加者同士のつながり】

- 参加者の中でOBやリーダー的存在がおり、LINEのグループを作ったり、地域イベント(小樽雪かき選手権)への参加とりまとめをしたり、自主企画(中間報告会)を開催できたのは良かった。
- △ 事前研修に参加出来なかったメンバーは、全体的に横の繋がりが希薄だったように感じる。今後は、事前研修・事後研修ともに全てのプログラムに参加できる人でないと、応募できないようにする。
- △ OBOGがチューター(アシスタント)のように事務局と参加者の間に入ることで、参加者間の繋がりが増したり、事務局や地域が期待する内容も伝わりやすくなる。今後、例えば過去にプログラムに参加したOBOGが参加できるような枠組み(例えば長期間でのインターン?)もあってもよいかもしれない。

【費用負担】

- 昨年度は、国費(ふるさとワーホリ)があり、参加者の宿泊費や保険料は国の補助があったが、今年度は参加者負担としたが、特に問題はなかった。(宿泊費は最大月に5万円程度自己負担となったが、時給与の支払いにより赤字までにはなっていない様子)
- △ 公式プログラム(研修や地域交流)参加に伴う交通費については、払うなら全員払うと事前にきちんと伝えておくべきであった。
- △ 現時点で参加費は無料だが、参加者アンケートによると1~1.5万円程度は、支払っても、参加する価値があると感じてくれている。

【実施時期】

- 夏のお盆時期、冬の旧正月時期など、できるだけピーク時の前から参加してもらった方が、受入側も多少の余裕があって良い。
- 冬は可能な人は、12月~3月までの期間で募集したところ、ワーホリ前の参加者3名が長期(3-4ヶ月)で参加し、企業からも喜ばれた。

●「属人」から「仕組」へ

- ・大学との連携強化(法政大学、関西外国語大学等との連携協定締結)
- ・OBOGとの連携強化(独自説明会の開催呼びかけ)
- ・「応援をする会」との連携強化(打ち上げ開催のみならず、事前研修でのレクチャー等)
- ・海外ボランティア斡旋団体など関連組織との連携強化(国際交流・留学・ワーホリ等に興味が深い参加者を増やす)
- ・広報強化(地域・企業への事業の周知・理解を広げる、受入地域・企業の拡大)
- ・HPのコンテンツ強化(プログラムの内容をもっとわかりやすく。個別の企業ごとの体験談など掲載、プロモーションビデオの作成)

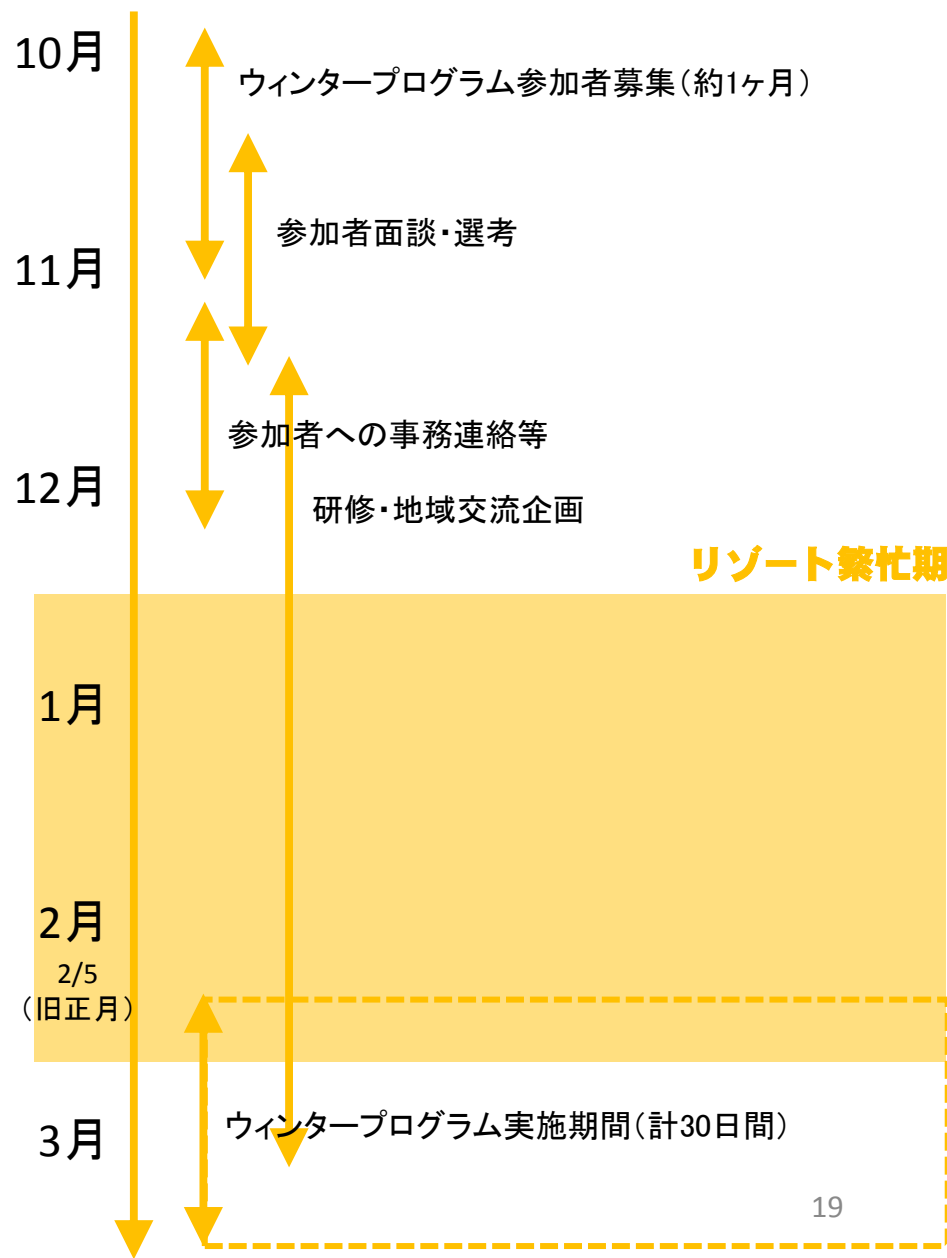
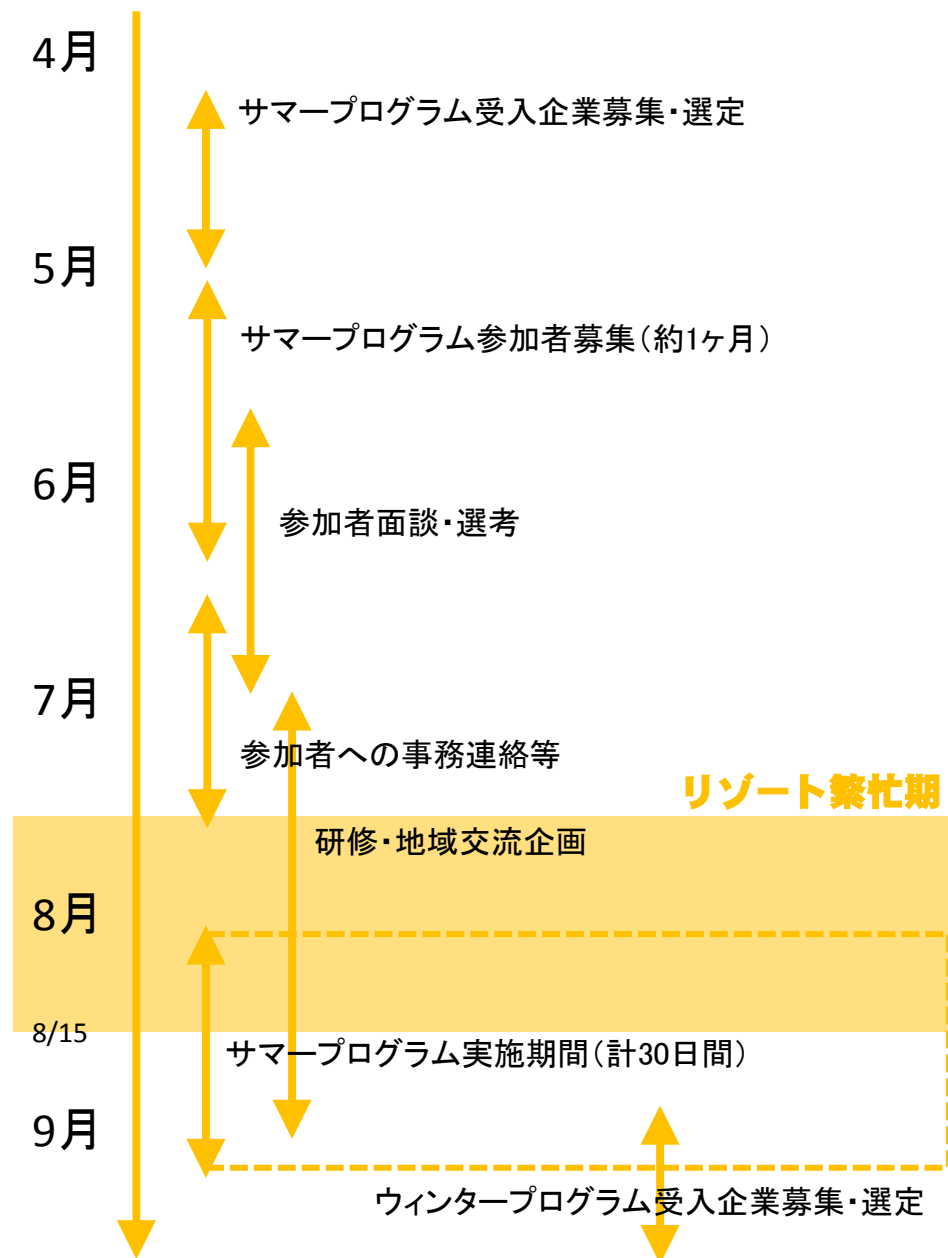
●「インバウンド先進地」で学ぶ

- ・事業のウリを「(単なる)英語力の向上」のみならず「多様性・国際性豊かなインバウンド先進地で〇〇〇を学ぶ」とする。〇〇〇の中身は、参加個人ごとにテーマがあってもいい。(例)英語力・海外留学プレ体験・外資系企業での働き方・インバウンド観光、自分探し等)
- ・企業インターンシップを軸としつつも、それ以外のテーマ別コンテンツを強化(夏場は地方創生・観光系のコンテンツ、冬場は英語力強化コンテンツ等)
- ・発展系として、長期型インターン(アカデミック、ビジネスどちらでも)も将来的にはあり?

●「マッチングクオリティ」ファースト

- ・参加者、受入企業ともに満足度を高めることが何よりも重要。
- ・参加者の満足度を高めるには、参加者の参加目的をまずは把握することが大切。(利尻屋みのや専務談)そのためにも、エントリー時に簡単な作文(800字程度?)の提出を義務づける。テーマ例は「私がプログラムに参加する目的」など。一定の参加ハードルを上げることで、安直な気持ちでのエントリー(結果的に企業に迷惑をかけたり、事務局の手間も増える)を防ぐ効果もある。
- ・受入企業については、「短期的な人手不足解消ではなく、中長期的な人材育成(地域貢献)の観点でのインターンシップとして受入」してもらうことを念を押す。明確に線引きするためにも、一律無償インターンとし、生活費(寮費・食費)のサポートのみ支給というのもアリか?その方が、時給とか条件面だけで企業のことを選ばずに、企業のことと調べたりして良いのでは。
- ・年度当初に、夏と冬の両方のプログラムの受け皿(受入企業)を用意し、両方参加してもいいし、学生でも夏休み・冬休み・春休みといずれも長期で参加することも可能なようにする。

H30 年間実施スケジュール (案)



●振興局公式サイト

http://www.shiribeshi.pre.Hokkaido.lg.jp/ts/tss/niseko_abroad.htm



ShiriBeshi留学

(通称:ニセコ留学)

しりべし ニセコ留学

検 索

- ・公開情報を更新
(受入企業募集要項、参加者募集要項等)
- ・過去の参加者の声や報告書等も掲載
- ・文字情報が中心

正確な情報が分かる

●公式フェイスブックページ

<http://www.facebook.com/niseko.abroad/>



ニセコ留学

検 索

- ・随時、関連情報を更新
(地域情報、企業情報など周辺関連情報なども含む)
- ・画像、動画等が中心

旬の情報・雰囲気分かる